



# Cisco HyperFlex Systems サーバのインストール

この章では、HyperFlex クラスタをセットアップするために物理コンポーネントをインストールする方法について説明します。

- [Cisco HyperFlex ノードの設置 \(1 ページ\)](#)
- [ファブリック インターコネクタの設定 \(2 ページ\)](#)
- [Cisco UCS ファブリック インターコネクタへの HX シリーズ サーバの接続 \(11 ページ\)](#)
- [概要 \(11 ページ\)](#)

## Cisco HyperFlex ノードの設置

HyperFlex クラスタとノードの制限の詳細については、[Cisco HX データ プラットフォームのリリース ノート](#)の最新バージョンで、[Cisco HX データ プラットフォーム ストレージ クラスタ仕様](#)を参照してください。

UCS C シリーズのインテグレーションの指針については、お使いのリリースの[Cisco UCS C シリーズサーバへの Cisco UCS Manager のインテグレーション設定ガイド](#)を参照してください。

Cisco HyperFlex ノードのインストールの詳細については、次の表からそれぞれのリンクを参照してください。

インストール先のノードのタイプ	参照先
コンバージドノード	
HyperFlex HX220c M4/M5 ノード	<a href="#">Cisco HyperFlex HX220c M4/M5 ノードインストールガイド</a>
HyperFlex HX240c M4/M5 ノード	<a href="#">Cisco HyperFlex HX240c M4/M5 ノードインストールガイド</a>
コンピューティング専用ノード	

インストール先のノードのタイプ	参照先
Cisco UCS B200 M3/M4/M5 ノード	<a href="#">Cisco UCS B200 M3/M4/M5 ブレード サーバ設置/サービス ノート</a>
Cisco UCS B260 M4 ノード、B460 M4 ノード	<a href="#">E7 v4 CPU 搭載サーバ向け Cisco UCS B260 M4 および B460 M4 ブレード サーバ設置および サービス ノート</a> <a href="#">E7 v3、E7 v2 の CPU 搭載サーバ向け Cisco UCS B260 M4、B460 M4 ブレード サーバ設置および サービス ノート</a>
Cisco UCS B420 M4 ノード	<a href="#">Cisco UCS B420 M4 ブレード サーバ設置および サービス ノート</a>
Cisco UCS B480 M5 ノード	<a href="#">Cisco UCS B480 M5 ブレード サーバ設置および サービス ノート</a>
Cisco UCS C240 M3/M4/M5 ラック ノード	<a href="#">Cisco UCS C240 M3/M4/M5 サーバインストールレーションおよびサービス ガイド</a>
Cisco UCS C220 M3/M4/M5 ラック ノード	<a href="#">Cisco UCS C220 M3/M4/M5 サーバインストールレーションおよびサービス ガイド</a>
Cisco UCS C480 M5 ノード	<a href="#">Cisco UCS C480 M5 サーバインストールレーションおよびサービス ガイド</a>
Cisco UCS C460 M4 ノード	<a href="#">Cisco UCS 460 M4 サーバ設置およびサービス ガイド</a>

## ファブリック インターコネクタの設定

高度な可用性をもたらすため、次のようにファブリック インターコネクタの冗長ペアを設定します。

1. L1 または L2 の高可用性ポート間で、イーサネット ケーブルを使用して直接 2 つのファブリック インターコネクタに接続します。
2. ファブリック インターコネクタ A 上のポート L1 をファブリック インターコネクタ B 上のポート L1 に接続し、ファブリック インターコネクタ A 上のポート L2 をファブリック インターコネクタ B 上のポート L2 に接続します。

これにより、2 つのファブリック インターコネクタは、互いのステータスを継続的にモニタします。

ファブリック インターコネクタを接続する前に、次の情報を確認して入手してください。

項目	説明
ファブリック インターコネクタの物理的な接続の確認。	<ul style="list-style-type: none"> <li>第1のファブリック インターコネクタのコンソールポートが、コンピュータまたはコンソールサーバに物理的に接続されている必要があります。</li> <li>管理イーサネット ポート (mgmt0) が外部のハブ、スイッチ、またはルータに接続されている必要があります。</li> <li>両方のファブリック インターコネクタのL1ポートが互いに直接接続されている必要があります。</li> <li>両方のファブリック インターコネクタのL2ポートが互いに直接接続されている必要があります。</li> </ul>
コンピュータ端末でのコンソールポートパラメータの確認。	<ul style="list-style-type: none"> <li>9600 ボー</li> <li>8 データ ビット</li> <li>パリティなし</li> <li>1 ストップ ビット</li> </ul>
初期設定の情報の取得。	<p>初期設定に関する次の情報を収集します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>システム名</li> <li>admin アカウントのパスワード</li> <li>3 つの静的 IP アドレス</li> <li>3 つの静的 IP アドレスのサブネット マスク</li> <li>デフォルト ゲートウェイの IP アドレス</li> <li>DNS サーバの IP アドレス。</li> <li>システムのドメイン名</li> </ul>

両方のファブリック インターコネクタで、同じセットアッププロセスを実施する必要があります。プライマリ ファブリック インターコネクタをセットアップし、クラスタ設定を有効にします。同じプロセスを使用してセカンダリ ファブリック インターコネクタを設定すると、最初のファブリック インターコネクタがピアとして検出されます。

## Cisco UCS Manager GUI を使用したプライマリ ファブリック インターコネクタの設定

設定を始める前に、同じサブネットでの次の3つのIPアドレスを指定します。

- プライマリ ファブリック インターコネクタ FI A の管理ポート IP アドレス
- セカンダリ ファブリック インターコネクタ FI B の管理ポートの IP アドレス
- HyperFlex クラスタの IP アドレス。

次のように Cisco UCS Manager GUI を使用してプライマリ ファブリック インターコネクタを設定します。

- ステップ 1** コンソールポートに接続します。詳細については、『[Cisco UCS 6300 シリーズファブリック インターコネクタハードウェア設置ガイド](#)』を参照してください。
- ステップ 2** ファブリック インターコネクタの電源を入れます。ファブリック インターコネクタが起動する際、電源オンセルフテストのメッセージが表示されます。
- ステップ 3** インストール方式プロンプトに *gui* と入力します。
- ステップ 4** システムが DHCP サーバにアクセスできない場合は、次の情報を入力するよう求められます。
- ファブリック インターコネクタの管理ポートの Ipv4 アドレス。
  - ファブリック インターコネクタ上の管理ポートの Ipv4 サブネットマスク。
  - ファブリック インターコネクタに割り当てられたデフォルト ゲートウェイの IPv4。

**重要** すべての IP アドレスは IPv4 である必要があります。HyperFlex は IPv6 アドレスをサポートしていません。

- ステップ 5** プロンプトから、Web ブラウザに Web リンクをコピーし、Cisco UCS Manager 起動ページに移動します。
- ステップ 6** **[Express Setup (Express セットアップ)]** を選択します。
- ステップ 7** **[Initial Setup (初期セットアップ)]** を選択し、**[Submit (送信)]** をクリックします。
- ステップ 8** **[Cluster and Fabric Setup (クラスタおよびファブリック セットアップ)]** 領域で、次のフィールドに値を入力します。

名前	説明
<b>[Enable Cluster (クラスタの有効化)]</b> オプション	<b>[Enable Cluster (クラスタの有効化)]</b> オプションを選択します。
<b>[Fabric Setup]</b> オプション	<b>[Fabric A (ファブリック A)]</b> を選択します。
<b>[Cluster IP Address]</b> フィールド	使用する Cisco UCS Manager IPv4 アドレスを入力します。

- ステップ 9** **[System Setup (システム セットアップ)]** 領域で、次のフィールドに値を入力します。

フィールド	説明
<b>[System Name]</b> フィールド	Cisco UCS ドメインに割り当てられる名前。

フィールド	説明
[Admin Password] フィールド	ファブリック インターコネクタ上の管理者アカウントに使用されるパスワード。  Cisco UCS Manager のパスワードのガイドラインに適合する強力なパスワードを選択します。このパスワードは空にできません。
[Confirm Admin Password] フィールド	ファブリック インターコネクタ上の管理者アカウントに使用されるパスワード。
[Mgmt IP Address] フィールド	ファブリック インターコネクタ上の管理ポートの固定 IP アドレス。
[Mgmt IP Netmask] フィールド	ファブリック インターコネクタ上の管理ポートの IP サブネットマスク。
[Default Gateway] フィールド	ファブリック インターコネクタ上の管理ポートに割り当てられるデフォルトゲートウェイの IP アドレス。
[DNS Server IP] フィールド	ファブリック インターコネクタ上の管理ポートに割り当てられる DNS サーバの IP アドレス。
[Domain name] フィールド	ファブリック インターコネクタが存在するドメインの名前。

- ステップ 10** [Submit] をクリックします。  
セットアップ操作の結果がページに表示されます。

## Cisco UCS Manager GUI を使用したセカンダリ ファブリック インターコネクタの設定

セカンダリ ファブリック インターコネクタのコンソール ポートが、コンピュータまたはコンソール サーバに物理的に接続されていることを確認します。以前設定したプライマリ ファブリック インターコネクタでの管理者アカウントのパスワードを知っていることを確認します。

- ステップ 1** コンソール ポートに接続します。詳細については、『[Cisco UCS 6300 シリーズ ファブリック インターコネクタ ハードウェア 設置ガイド](#)』を参照してください。
- ステップ 2** ファブリック インターコネクタの電源を入れます。ファブリック インターコネクタが起動する際、電源 オン セルフテストのメッセージが表示されます。
- ステップ 3** インストール方式プロンプトに `gui` と入力します。
- ステップ 4** システムが DHCP サーバにアクセスできない場合は、次の情報を入力するよう求められます。

- ファブリック インターコネクタの管理ポートの Ipv4 アドレス。
- ファブリック インターコネクタ上の管理ポートの Ipv4 サブネット マスク。
- ファブリック インターコネクタに割り当てられたデフォルト ゲートウェイの IPv4 アドレス。

(注) 設定時に両方のファブリック インターコネクタに同じ管理インターフェイスのアドレスタイプを割り当てる必要があります。

- ステップ 5** プロンプトから、Web ブラウザに Web リンクをコピーし、Cisco UCS Manager GUI 起動ページに移動します。
- ステップ 6** プロンプトから、Web ブラウザに Web リンクをコピーし、Cisco UCS Manager 起動ページに移動します。
- ステップ 7** **[Express Setup (Express セットアップ)]** を選択します。
- ステップ 8** **[Initial Setup (初期セットアップ)]** を選択し、**[Submit (送信)]** をクリックします。  
ファブリック インターコネクタは、第 1 ファブリック インターコネクタの設定情報を検出します。
- ステップ 9** **[Cluster and Fabric Setup (クラスタおよびファブリック セットアップ)]** 領域で、次のフィールドに値を入力します。

名前	説明
<b>[Enable Cluster (クラスタの有効化)]</b> オプション	<b>[Enable Cluster (クラスタの有効化)]</b> オプションを選択します。
<b>[Fabric Setup]</b> オプション	<b>[Fabric B (ファブリック B)]</b> を選択します。

- ステップ 10** **[System Setup (システム セットアップ)]** 領域の **[Admin Password of Master (マスターの管理者パスワード)]** フィールドに管理者アカウントのパスワードを入力します。**[Manager Initial Setup (Manager の初期セットアップ)]** 領域が表示されます。
- ステップ 11** **[Manager Initial Setup (Manager の初期セットアップ)]** 領域で表示されるフィールドは、第 1 ファブリック インターコネクタを IPv4 のどちらの管理アドレスで設定したかによって異なります。次のように、設定に適したフィールドに入力します。

フィールド	説明
<b>[Peer FI is IPv4 Cluster enabled. [local FI Mgmt0 IPv4 address (ローカル FI Mgmt0 IPv4 アドレス)]</b> フィールドに入力してください。	ローカルファブリック インターコネクタの Mgmt0 インターフェイスの IPv4 アドレスを入力します。

- ステップ 12** **[Submit]** をクリックします。  
セットアップ操作の結果がページに表示されます。

## CLIによるプライマリ ファブリック インターコネクタの設定

- ステップ 1** コンソール ポートに接続します。
- ステップ 2** ファブリック インターコネクタの電源を入れます。  
ファブリック インターコネクタが起動すると、電源投入時セルフテスト メッセージが表示されます。
- ステップ 3** 設定されていないシステムがブートすると、使用する設定方法の入力を要求するプロンプトが表示されます。 **console** と入力して、コンソール CLI を使用した初期設定を続行します。
- ステップ 4** **setup** と入力して、初期システム設定を続行します。
- ステップ 5** **y** と入力して、初期設定を続行することを確認します。
- ステップ 6** **admin** アカウントのパスワードを入力します。
- ステップ 7** 確認のために、**admin** アカウントのパスワードを再入力します。
- ステップ 8** **yes** と入力して、クラスタ構成の初期設定を続行します。
- ステップ 9** ファブリック インターコネクタのファブリックを入力します (**A** または **B**)。
- ステップ 10** システム名を入力します。
- ステップ 11** ファブリック インターコネクタの管理ポートの IPv4 アドレスを入力します。  
IPv4 サブネット マスクを入力するように求められます。
- ステップ 12** IPv4 サブネット マスクを入力し、**[Enter]** を押します。  
ファブリック インターコネクタの管理ポート用に入力したアドレスタイプによって、デフォルト ゲートウェイの IPv4 アドレスを求められます。
- ステップ 13** デフォルト ゲートウェイの IPv4 アドレスを入力します。
- ステップ 14** DNS サーバの IP アドレスを指定する場合は **yes** を入力し、指定しない場合は **no** を入力します。
- ステップ 15** (任意) DNS サーバの IPv4 アドレスを入力します。  
アドレスタイプはファブリック インターコネクタの管理ポートのアドレスタイプと同じである必要があります。
- ステップ 16** デフォルトのドメイン名を指定する場合は **yes** を入力し、指定しない場合は **no** を入力します。
- ステップ 17** (任意) デフォルト ドメイン名を入力します。
- ステップ 18** 設定の概要を確認し、**yes** と入力して設定を保存および適用するか、**no** と入力して設定ウィザードを初めからやり直して設定を一部変更します。  
設定ウィザードのやり直しを選択した場合は、以前に入力した値が角カッコで囲まれて表示されます。以前に入力した値をそのまま使用する場合は、**Enter** を押します。

### 例

次に、コンソールおよび IPv4 管理アドレスを使用してクラスタ設定の最初のファブリック インターコネクタをセットアップする例を示します。

```

Enter the installation method (console/gui)? console
Enter the setup mode (restore from backup or initial setup) [restore/setup]? setup
You have chosen to setup a new switch. Continue? (y/n): y
Enter the password for "admin": adminpassword%958
Confirm the password for "admin": adminpassword%958
Do you want to create a new cluster on this switch (select 'no' for standalone setup or
if you want this switch to be added to an existing cluster)? (yes/no) [n]: yes
Enter the switch fabric (A/B): A
Enter the system name: foo
Mgmt0 IPv4 address: 192.168.10.10
Mgmt0 IPv4 netmask: 255.255.255.0
IPv4 address of the default gateway: 192.168.10.1
Virtual IPv4 address: 192.168.10.12
Configure the DNS Server IPv4 address? (yes/no) [n]: yes
DNS IPv4 address: 20.10.20.10
Configure the default domain name? (yes/no) [n]: yes
Default domain name: domainname.com
Join centralized management environment (UCS Central)? (yes/no) [n]: no
Following configurations will be applied:
Switch Fabric=A
System Name=foo
Management IP Address=192.168.10.10
Management IP Netmask=255.255.255.0
Default Gateway=192.168.10.1
Cluster Enabled=yes
Virtual Ip Address=192.168.10.12
DNS Server=20.10.20.10
Domain Name=domainname.com
Apply and save the configuration (select 'no' if you want to re-enter)? (yes/no): yes

```

## CLIによる従属ファブリック インターコネクタの設定

この手順は、管理ポートに対しIPv4アドレスを使用して第2のファブリック インターコネクタをセットアップする方法について説明します。



- (注) 新しいファブリック インターコネクタを既存の高可用性クラスタに追加する場合、たとえば、新規インストール時またはファブリック インターコネクタの交換時に、認証方式がリモートに設定されている限り、新しいデバイスはクラスタにログインできません。新しいファブリック インターコネクタをクラスタに正常に追加するには、認証方式を一時的にローカルに設定し、プライマリ ファブリック インターコネクタのローカル管理者資格情報を使用する必要があります。

**ステップ 1** コンソール ポートに接続します。

**ステップ 2** ファブリック インターコネクタの電源を入れます。

ファブリック インターコネクタが起動すると、電源投入時セルフテスト メッセージが表示されます。

**ステップ 3** 設定されていないシステムがブートすると、使用する設定方法の入力を要求するプロンプトが表示されます。**console** と入力して、コンソール CLI を使用した初期設定を続行します。



(注) ファブリック インターコネクトによって、クラスタ内のピア ファブリック インターコネクトが検出されます。検出されなかった場合は、L1 ポートと L2 ポート間の物理接続を調べ、ピア ファブリック インターコネクトがクラスタ設定でイネーブルになっていることを確認します。

**ステップ 4** **y** と入力して、従属ファブリック インターコネクトをクラスタに追加します。

**ステップ 5** ピア ファブリック インターコネクトの管理パスワードを入力します。

**ステップ 6** 従属ファブリック インターコネクト上の管理ポートの IP アドレスを入力します。

**ステップ 7** 設定の概要を確認し、**yes** と入力して設定を保存および適用するか、**no** と入力して設定ウィザードを初めからやり直して設定を一部変更します。

設定ウィザードのやり直しを選択した場合は、以前に入力した値が角カッコで囲まれて表示されます。以前に入力した値をそのまま使用する場合は、**Enter** を押します。

## 例

次に、ピアのコンソールおよび IPv4 アドレスを使用してクラスタ設定の第 2 のファブリック インターコネクトをセットアップする例を示します。

```
Enter the installation method (console/gui)? console
Installer has detected the presence of a peer Fabric interconnect. This Fabric interconnect
will be added to the cluster. Continue (y/n) ? y
Enter the admin password of the peer Fabric Interconnect: adminpassword&958
Peer Fabric interconnect Mgmt0 IPv4 Address: 192.168.10.11
Apply and save the configuration (select 'no' if you want to re-enter)? (yes/no): yes
```

## コンソール設定の確認

SSH を介してファブリック インターコネクトにログインすることで、両方のファブリック インターコネクトが完了していることを確認できます。

Cisco UCS Manager CLI を使用してクラスタのステータス確認するには、次のコマンドを使用します。

表 1:

コマンド	目的	出力の例
<b>show cluster state</b>	ハイアベイラビリティクラスタの両方のファブリック インターコネクタの動作状態およびリーダーシップ ロールを表示します。	次の例の表示では、両方のファブリック インターコネクタが Up 状態、HA が Ready 状態、ファブリック インターコネクタ A がプライマリ ロール、ファブリック インターコネクタ B が従属ロールです。  UCS-A# show cluster state Cluster Id: 0x4432f72a371511de-0xb97c000de1blada4  A: UP, PRIMARY B: UP, SUBORDINATE HA READY
<b>show cluster extended-state</b>	クラスタの状態を詳細に表示します。通常は問題をトラブルシューティングする場合に使用します。	次の例は、クラスタの詳細な状態を表示する方法について示します。  UCSC# show cluster extended-state 0x2e95deaccd0f11e2-0x8ff35147e84f3de2Start time: Thu May 16 06:54:22 2013Last election time: Thu May 16 16:29:28 2015System Management Viewing the Cluster State A: UP, PRIMARY B: UP, SUBORDINATE  A: memb state UP, lead state PRIMARY, mgmt services state: UP B: memb state UP, lead state SUBORDINATE, mgmt services state: UP heartbeat state PRIMARY_OK HA READY Detailed state of the device selected for HA quorum data:  Device 1007, serial: a66b4c20-8692-11df-bd63-1b72ef3ac801, state: active Device 1010, serial: 00e3e6d0-8693-11df-9e10-0f4428357744, state: active Device 1012, serial: 1d8922c8-8693-11df-9133-89fa154e3fa1, state: active

# Cisco UCS ファブリック インターコネクトへの HX シリーズ サーバの接続

## 概要

Cisco HX220c および HX240c サーバはファブリック インターコネクトに直接接続します。直接接続することで、Cisco UCS Manager は管理トラフィックとデータ トラフィックの両方に対し、1つのケーブルを使用して HX シリーズ サーバを管理できます。



- (注) サーバをファブリック インターコネクトに接続した後、そのサーバが検出された時点で、UCS Manager 設定フォームを使用して、Cisco UCS Manager で使用可能な C シリーズ ソフトウェアバンドルを更新します。

直接接続モードを使用する場合は、すべての Cisco UCS 管理対象アダプタを、ファブリック インターコネクトのサーバポートに接続する必要があります。「要件」の章に記載されているように、HX サーバに推奨されるファームウェアがあることを確認します。推奨ファームウェアがない場合は、Cisco UCS Manager を使用してファームウェアを更新します。



- (注) UCS の設定に関する次の制限事項に注意してください。
- Cisco HX に固有の UCS の設定に関する制限事項：HX M4 サーバは 1227 VIC および 6332-16UP ファブリック インターコネクトと互換性がありません。
  - Cisco UCS の設定に関する一般的な制限事項：『[Cisco UCS 6200、6332 および 6324 シリーズ Cisco UCS Manager コンフィギュレーション上限値ガイド](#)』を参照してください。

## ファブリック インターコネクトへのコンバージド ノードの接続

このトピックでは、HX クラスタの作成または既存の HX クラスタへの追加のために、コンバージド ノードを物理的に追加する方法について説明します。

## 始める前に



## 重要

- Cisco UCS Managerと統合する前に、CIMC サーバを出荷時のデフォルト設定に設定します。
- 統合ノード用には、専用CIMCポートをネットワークに接続しないでください。そうすると、Cisco UCS Managerでサーバが検出されなくなります。サーバが検出されない場合は、各サーバの CIMC を出荷時の設定にリセットします。
- 近い将来に FC ストレージを接続する必要がない場合は、ポート1～16のみを使用します。
- Cisco UCS FI 63xx および64xx では、ポート1～6をFCポートとして設定することだけがサポートされています。今後FCストレージを接続する必要がある場合は、ポート1～6をFCに変換します。



(注) 変換によって HX の展開が中断されることがあります。

- CIMC サーバを接続する前に、Cisco VIC 1227 が HXc240 の PCIe スロット 2 または HXc220 のライザ 1 スロット 1 に装着されており、Cisco UCS Manager と統合できることを確認します。カードが正しいスロットに装着されていない場合、サーバの直接接続管理を有効にできません。
- ファブリック インターコネクタへのサーバの物理的なケーブル接続を完了し、ポートをサーバポートとして設定します。

**ステップ 1** ラックに HX サーバを設置します。詳細については、[Cisco HyperFlex ノードの設置 \(1 ページ\)](#) を参照してください。

**ステップ 2** ファブリック インターコネクタのサーバポートを構成します。

- a) サーバ上の一方のポートから 10-Gb SFP+ ケーブルをファブリック インターコネクタ A に接続します。ファブリック インターコネクタ A の任意のポートを使用できますが、サーバトラフィックに対応可能なポートでなければなりません。

1 枚のカードの VIC からファブリック インターコネクタに 1 本のケーブルを接続します。両方のポートを同じファブリック インターコネクタに接続しないでください。

- b) そのポートをサーバポートとして FI-A で設定します。詳細な手順については、『[Cisco UCS Manager Network Management Guide](#)』の「*Configuring Port Modes for a 6248 Fabric Interconnect*」の項を参照してください。
- c) サーバ上のもう一方のポートから 10-Gb SFP+ ケーブルを FI B に接続します。FI B の任意のポートを使用できますが、サーバトラフィックに対応可能なポートでなければなりません。

(注) アップリンクで SFP+ タイプを混在使用しないでください。混在させると、「Discovery Failed」エラーが表示されます。

- d) そのポートをサーバポートとして FI-B で設定します。詳細な手順については、『Cisco UCS Manager Network Management Guide』の「Configuring Port Modes for a 6248 Fabric Interconnect」の項を参照してください。

**ステップ 3** 電源コードをノードの各電源装置に接続し、次に接地された AC 電源コンセントに接続します。初期ブート時には、スタンバイ電源でノードが起動するまで約 2 分かかります。

- (注)
1. 電源を入れると、ファブリックインターコネクトによってサーバが検出されます。UCS Manager でノードの検出を監視できます。
  2. 前面パネルのノードの電源ステータス LED を調べて、ノードの電源ステータスを確認します。LED がオレンジの場合、ノードはスタンバイ電源モードです。

**ステップ 4** ステップ 1～4 を繰り返して、HyperFlex クラスタの残りの HX シリーズサーバを接続します。

## 直接接続モードのクラスタ セットアップの物理的な接続の図

次の図は、C-Series Rack-Mount Server と Cisco UCS Domain、Cisco UCS Manager リリース 3.1 以降との直接接続モードの物理接続の例を示しています。次の図は、UCS Manager と C-Series ラックマウントサーバを統合する場合の配線構成を示しています。ゴールドで示されたパスでは、管理トラフィックとデータトラフィックの両方が伝送されます。

図 1: 直接接続の配線設定

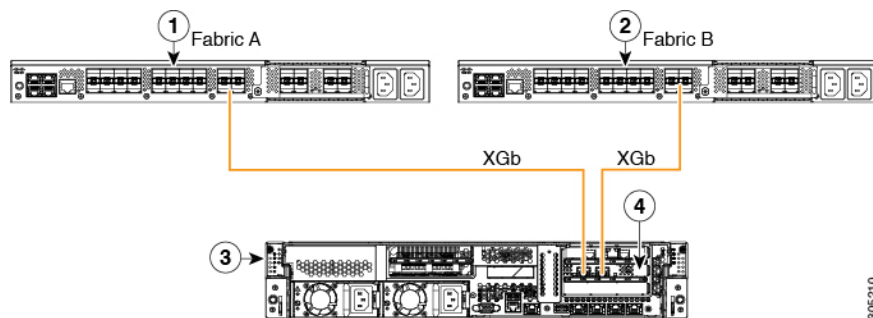
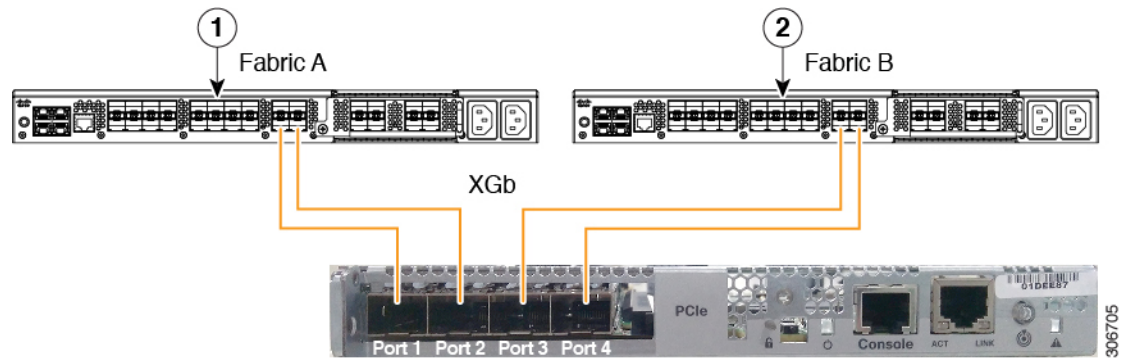


図 2: Cisco VIC 1455 との直接接続の配線構成



1	Cisco UCS 6454 ファブリック インターコネクต์または Cisco UCS 6200、または 6300 シリーズ FI (ファブリック A)	3	C シリーズ ラックマウント サーバ
2	Cisco UCS 6454 ファブリック Fabric Interconnect or Cisco UCS 6200, or 6300 Series FI (Fabric A) Cisco UCS 6200 または 6300 シリーズ ファブリック インターコネクต์	4	サポート対象 PCIe スロット内の Cisco UCS VIC

XGb は 40 ギガビット イーサネット接続または 10 ギガビット イーサネット接続を表します。10 ギガビット イーサネットの場合、次のケーブルが使用されます。

- 4 X 10 ブレークアウト Small Form-Factor Pluggable (SFP) ケーブル
- 4 X 10 アクティブ光ケーブル (OAC)
- Qualified Security Assessor (QSA) モジュールを使用する 10G Small Form-Factor Pluggable (SFP) ケーブル

## ファブリックインターコネクต์へのコンピューティング専用ノードの接続

このトピックでは、既存の HyperFlex クラスタにコンピューティング専用ノードを物理的に追加する方法について説明します。



(注) HyperFlex ストレージクラスタを作成および設定後、コンピューティング専用ノードを HyperFlex クラスタに接続します。

1. HyperFlex ストレージクラスタがすでに作成されていることを確認します。

2. コンピューティングノードとなる HX サーバを接続します。コンピューティング専用ノードのインストールの詳細については、[Cisco HyperFlex ノードの設置 \(1 ページ\)](#) を参照してください。
3. Cisco HX Data Platform を使用してクラスタ展開ワークフローを実行します。コンピューティング専用ノードを追加するには、クラスタ展開ワークフローを使用します。詳細な手順については、[既存のクラスタへのコンピューティング専用ノードの追加](#)を参照してください。

■ ファブリック インターコネクトへのコンピューティング専用ノードの接続